



世界へのプレゼントになろう

2015-16年度 国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
 ■会長 / 鈴木 清詞 ■幹事 / 坂本 晃 ■会報・雑誌・広報委員長 / 江松 央統
 ■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

第1153回

2015年10月13日(火) 晴 第13回

～ 経済と地域社会の発展月間 / 米山月間 ～

斉唱 それでこそロータリー
 出席 会員55名(出席率算入人数45名)
 出席36名 出席率80.00%
 前々回補填率83.33%(9月30日分)
 ゲスト 地区米山記念奨学委員会
 特別顧問・アドバイザー
 中島 実さん
 米山学友 于 咏さん

10月の結婚記念日

2日 久米 伸治さん 6日 木下 福郎さん
 10日 川辺 清次さん 13日 山本 郁矢さん
 18日 森田敏二三さん 27日 三浦 和人さん
 31日 加藤 英敏さん

会長あいさつ

会長 鈴木 清詞さん

皆さまこんばんは。今日は地区米山記念奨学委員会の中島さん、米山親善大使の于 咏さんをお迎えして卓話をしていただきます。

大変涼しくなってきました。今が一年の中で一番良い気候なのかなという気がします。

ところで、今日は夢の話をしたと思います。夢を持つというのは、非常に大事な事で、将来あんな風になりたい、こんな事を実現したいといったような事が1つの目標になっていきます。夢に時間を付けますと、これが目的になる。いつまでに何をしていくかという事で、自分の人生設計もできてきます。苦しい時に頑張れるのも、やはり夢があるからだろうと思います。

そんな中で、残念なお知らせがあります。日本の青少年研究所で13歳～29歳の若者の意識調査を世界7ヶ国で実施したところ、「自分の将来について明るい希望を持っているか、あるいは、自分が今の自分の親よりも将来良い生活ができると思いますか。」という質問をしたところ、7ヶ国中、日本は最下位でした。1位はアメリカで91%、スウェーデンも90.8%、イギリスは89.8%、経済も低迷しており、就職も非常に大変そうな韓国ですら86.4%の若者が夢を持って、将来はきっと今よりも良い生活になると思っています。フランスで83.3%、ドイツで



82.4%、日本は61.6%でした。

今の日本の若者は、自分が将来、今の自分の親よりも良い生活ができるという事に対して、自信を持っていないという結果が出ているそうです。我々ロータリアンとしては、今の若者にやはりもっともっと希望や夢を持てるような社会の実現の為に頑張っていかなければいけないという風に思います。

幹事報告

幹事 坂本 晃さん

- 来週10月20日(火)は例会変更です。24日(土)のワールドフードふれ愛フェスタにおいて、テレビ塔下にロータリーのブースがありますので、11時にそこに集合していただく事になりました。例会はありませんが、このイベントに積極的にご参加ください。今回から分区ごとにブースを作り、ロータリーをアピールするという事です。西名古屋分区は2760地区としては少し離れているらしいのですが、県の歯科医師会と共同でイベントを行うそうです。当クラブ会員の末永さんも、歯科医師会の会員として参加してくれるそうです。
- 鬼怒川豪雨災害義援金のお願いを理事会で決定しましたので、ご協力をお願い致します。

ニコボックス

- ◆ 米山学友 于 咏さんの卓話楽しみにしています。

加藤 英敏さん 犬飼りさ枝さん 入谷 直行さん
 新原 尚さん 田中 一雄さん 野々村憲吾さん
 伊藤 圭一さん 鈴木 清詞さん 牧野 好弘さん
 木下 福郎さん 大平 明子さん 本多 利郎さん
 日下智重子さん 久米 伸治さん 有川 英敏さん
 安藤 修さん 川瀬 悟さん 吉木 邦男さん
 三浦 和人さん 中村 勝さん 加藤 宜之さん
 武藤 正行さん 三島多恵子さん 中西 芳子さん
 細井 俊男さん

- ◆ 本日は、米山月間としての卓話訪問に米山親善大使としての「ウーエイ」さんと一緒にお邪魔させて頂きましたので、宜しく御願ひ申し上げます。

地区米山記念奨学委員会 特別顧問・アドバイザー
 中島 実さん

- ◆ 私の友人の豊橋RCの村井さんが2018-19年度ガバナー／ミニー・デジグネートに指名されました。
 坂本 晃さん

本日合計 38,000円 累計 326,000円

委員会報告

■国際奉仕委員会 副委員長 三浦 和人さん

4月に起きたネパールでの大震災ですが、山本郁矢さんと私の2人で被災地にコンロを18台届けてきました。カトマンズから1時間程山道を行くと、仮設とはいえ中々立派な家が出来ていました。18軒に1台ずつ、合計約80,000円の寄付をして参りました。

カトマンズは3292地区という事ですが、ガバナーにもお会いしまして、この地区に対するお礼、また、他の地区に対するメッセージやお礼をいただきましたので、それはまたこの地区から送っていただきます。

それから、1959年にできたカトマンズRCの現在の会長が、米山奨学生で大学の先生でした。非常に日本に関心を持って、また、支援を感謝しており、メッセージとバナーをいただきました。

■職業奉仕委員会 委員長 武藤 正行さん

10月27日(火)、職場例会で裁判所の見学会を開催させていただきます。ご参加いただく方にご連絡ですが、名古屋地裁高裁の庁舎1階正面に守衛がいますので、そこから入っていただいて、北側の一番奥に、集合時間の10時25分までにお越しください。

車でお越しの方は、道路の反対側に家庭裁判所がありますので、そちらの駐車場をご利用ください。どうしても都合が悪くなった場合は、当日、私の携帯電話までご連絡ください。

■有志の会 杉山 隆秀さん

先般、鈴木さんのお孫さんの宝塚歌劇団を見に行こうというご案内を差し上げましたが、一番希望の多かった、3月29日(火)で決定させていただきます。

ただし、この日は2部となっております。朝7時位に出発するか、夜9時過ぎに帰るかのどちらかになります。バスをチャーターしますので、10月23日(金)までにお返事をいただきたいと思います。

米山記念奨学委員会卓話

■地区米山記念奨学委員会

特別顧問・アドバイザー 中島 実さん

皆さま、こんばんは。日頃は米山奨学事業に対しまして、大変温かいご理解と深いご協力を賜り誠に有難うございます。只今ご紹介をいただきました、名古屋北RCから出向させていただいております、地区米山奨学委員会アドバイザーの中島と申します。宜しくお願いします。



日頃から、名南RC様の加藤宜之財務委員長にはご出向いただいております、地区米山の財務体質を赤字から大幅黒字にさせていただき、地区としても大変助かっております。本当に有難うございます。また、本日は貴重なお時間を頂戴し、米山月間としての卓話訪問の機会をいただき、誠に有難うございます。

さて、名南RC様にはこれまでに14名の米山奨学生を受け入れていただき、今年は、名古屋市立大学の楊光心君をお預かりいただくと同時に、カウンセラーの大平明子さん、クラブ委員長の大橋さなえさ

んにも大変ご苦勞をお掛けしていますが、宜しくお願ひ致します。また、皆さま方には、毎年多額のご寄付を賜り、過去累計額として、4,115万円と大変高額な浄財をいただき、誠に有難うございました。心より厚くお礼と感謝を申し上げます。

さて、皆さまご承知のように、米山奨学事業は、現在世界123ヶ国18,600名を超える米山学友が活躍をされ、博士号取得者も3,500名を超える、まさにロータリーが誇れる民間最大の国際親善事業として、半世紀以上の長きに渡り、大先輩から脈々と受け継がれ発展して参りましたが、悲しい事に、全国のロータリアンの数も10万人から9万人を大きく割り込んでおり、寄付額も大幅に落ち込んでおります。

米山奨学生の採用数が800名から700名に減らされましたが、皆さま方の温かいご支援のお陰をもちまして、2014～2015年度の寄付額は14億1,475万円と6年ぶりに14億円を突破致しました。そのため、2015年度からの採用数は700名から720名に増やす事ができました。また、昨年は52のクラブに卓話訪問をさせていただき、非常に温かいご理解を頂戴致しました。ちなみに昨年度の当地区の個人平均寄付額は20,812円でした。

県内トップと致しますと名東RCの328,655円でした。ホシザキ電気の坂本さんから、1億円の寄付をいただいた事は有名なお話で、ちょうど私が地区委員長をさせていただいていた時に、坂本さんからお電話をいただき「昨年1億円を寄付したが、今度は、私が持っている当社の株式(200～300億円)を米山に寄付したいと思っているがどうか」と相談を受けました。

米山記念奨学会の回答は、現金以外は受け取れないとの事でNOでした。「それでは当社の発行済の全株式を1株株主にして、その配当金を毎年米山に寄付したいと考えている」と言われ、1株株主が実現し、毎年配当金から2,000～3,000万円ご寄付をいただき、現在累計で2億円を突破致しました。本当に有難い事だと思っています。

さて、名南RCからは、本日の卓話は中島アドバイザーにとご指名をいただき、寄付金の使い方、使途について説明して欲しいと地区に依頼がありましたので、お役目柄、お許しをいただきたいと思います。詳細につきましては、緑色の豆辞典7ページをご覧ください。2013年と2014年の対比表が記載されていますが、収入として2013年は13億3,746万円に対して、2014年度は14億1,473万円と、7,727万円大幅増になっています。支出は1,184万円減となっていますので、合計で8,911万円増になっています。

管理費等の支出につきましては、利子収入が7,900万円に対して、管理費が6,500万円とまかなわれておりますのでご安心いただけるものと思います。財政面につきましては8ページをご覧ください。基本財産と特別積立財産の推移、また、右側は寄付金と奨学金や事業費の推移が分かりやすく説明されています。

さて、本日は、米山奨学生から学友、さらに愛知Eクラブのロータリアンになられ、今年度は米山親善大使に選ばれた于咏(ウ・エイ)さんと一緒にお邪魔させて頂いております。親善大使については豆辞典の22ページに記載しています。勿論、米山記念奨学会本部より正式認可をいただき、我が国初の女性親善大使としての初講演になりますので、宜しくお

願い致します。

ちなみに、ウ・エイさんは、名古屋大学大学院をご卒業後、非常に難しいと言われていた心理学についての博士号を取得されると同時に、世界10ヶ国以上の同時通訳や翻訳もされる才女でございます。短い時間ではございますが、ご清聴賜ります様宜しくお願い申し上げます、私からのお礼と感謝の気持ちにかえさせていただきます。本日は、お招き有難うございました。

■米山学友 于 咏さん

皆さま、こんばんは。今日は「報恩・奉仕・繁栄」というタイトルで少しお話をさせていただきます。

私は、中国の天津の出身で、1996年に初めて来日しました。最初は日本語が話せませんでした。愛知淑徳大学の留学生別科にて1年半の間日本語を勉強してから、全国の留学生のセンター試験みたいなものを通して、名古屋大学教育学部に入りました。以来10年間名古屋大学にいまして、ロータリーのお陰で心理学の博士号を取得する事ができました。

私の専攻は臨床心理学です。米山にお世話になったのが2005年で、2年間名古屋中ロータリーにお世話になりました。昨年5月に愛知ロータリーEクラブが設立され、チャーターメンバーとしてEクラブに入っています。今年の7月に第2代目の米山親善大使を任命され、大変光栄に思います。

私の専攻ですが、臨床心理学で、心のケアが目的です。先ほど会長挨拶の中でも、日本の若者には夢が少ないというお話がありました。現在勤めている専門学校の未成年～20代前半の学生を見ると、活発でありながら時には無気力であったり、少し将来に対する不安、やはり将来性が見えないという人が結構居たりします。それよりもっと精神的な障害だったり、発達障害を抱えたりという子供から成人までが、私の研究領域でした。今現在は、こういった実践活動をしながら、特に中部エリアで勤めている外国人が異文化に適應できない時のカウンセリングをしています。

私の仕事ですが、学校法人セムイ学園で心理学の授業を担当しながら、英語を教えたり、国際事業を行ったり、中途退学の防止や総務や管理といった様々な仕事をさせていただいております。来日当初を振り返りますと、私は日本語が話せませんでした。19年前の中国はまだ貧しく、今の爆買いのような事は夢にも思いませんでした。

当時の両親の月収は30,000円でした。4人家族で月収30,000円の中、両親は多分一生分の貯金130万円を払って、私は来日しました。保証人が居ませんでした。そのために1年間の学費と1年間の生活費を払わなければならない、合わせて130万円でした。日本に来て、毎月学校から30,000円くらい返金され、それで生活していました。当然ながら足りないの、来日2日目からアルバイトを探し出しました。日本語が話せませんので、洗い場や新聞配達をしました。徐々に話せるようになると、ホールや美容室の掃除、スロット屋や麻雀屋など色々やりました。

そんな中、とてもラッキーだったのがロータリー

との出会いでした。10年前の事です。米山奨学金は、月14万円あります。時給1,000円で換算すれば、毎月140時間の自由時間が得られるという事になります。毎月140時間も自由時間が得られるのであれば、どれだけ沢山勉強できるでしょう。そして、お金よりも更に大事なものは、人生の良い模範ができた事です。なるべき人間像、成功した人生とは何か、そういった理想像が具現化された事です。

お陰様で、私は成長しました。日本語が殆どいない肉体労働から、翻訳、通訳、そして自分の専門領域の講師まで、知的労働者に成長しました。長年の留学生活の頂点に至ったのは、RCと出会ってからであり、皆さまのお陰であるのです。しかし、これは決して私1人のサクセスストーリーではありません。18,000人以上の米山奨学生がこのようなストーリーを語る、米山だからこそできた「人作り」の素晴らしい事業です。

米山奨学事業は、日本最初のRCの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足し、1967年、文部省（現在の文部科学省）の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会として創設されました。

ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀とは、①学業に対する熱意と優秀性、②異文化理解、③コミュニケーション能力への意欲や能力に優れている点が含まれます。

このように、年間、優秀な奨学生の採用数は700人に上り、事業費は約13億円と、日本では民間最大の奨学事業となっています。実は、この数値は減少傾向であり、従来の800人、事業費14億円から既に大幅ダウンしております。ロータリアン総人数や寄付金の減少が原因です。

これまでに支援してきた奨学生数は、累計で18,269人（2014年4月現在）。その出身国は世界123の国と地域に及びます。そのうち、3,300人以上の奨学生は博士号を取得しました。留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。

そして、米山の独自の世話クラブとカウンセラー制度は、非常に優れたもので、単なる経済的に支援するだけではなく、心の通った人間性に富んだ支援でもあります。

自分自身の経験によって、米山奨学金は支援された留学生その本人はもちろん、日本国にも深遠な意義を持ち、長いスパンで利益をもたらしていると考えています。留学生にとっては、貴重な経済的な支援である以上、ロータリアン、即ち人生の優れた先輩たちとの交流ができ、人生の成功者として学べる事ができるのが、大変有難く幸運なことです。言い換えれば、「自分」という個人を超えて、「現在」という次元を超えて、より広い社会と未来に対する展望ができることです。これは、若者の成長に最も素晴らしい栄養剤であると、私は信じています。

そして、日本国にとっては、正しく世界に平和と愛の種を蒔く優れた民間外交となります。目に見えなくても、今すぐ返ってこれなくても、いずれいつか、その種が芽生え、遠い国々で平和の果実が収穫されるでしょう。

更に、就職してからも、ロータリーとのご縁が強くなり続け、まさに絆に変わりつつあります。今勤めている学園の理事長はロータリアンですし、学友になってからも、学友会の役員を務め、お世話になったロータリアン達と交流を深め続けています。

奨学生から学友へ。学友会は、奨学期間を終了した学友と呼ばれる元米山奨学生と現役奨学生によって組織されている会で、日本では31団体、海外では、中国、台湾、韓国、タイ、ネパール、そしてモンゴルと、6つの国と地域に設置されています。それぞれ地域のRCと連携し、自主的に活動を行っています。

地区の学友会で米山ファミリーが繋がっています。春・秋季合同研修会、総会、忘年会、地区大会など年5回の大きなイベントがあり、昨年から新たにWFFへの参加もしています。『友愛の輪は国籍を問わず。』米山は、我々日本でのハッピーなファミリーなのです。

更に、学友からロータリアンへ。今年5月、地区唯一のEクラブ、日本では8番目の愛知ロータリーEクラブが設立されました。米山の関係でそのチャーターメンバーになり、ロータリー家族に入らせていただきました。

10万人を超える在日留学生の1人であった私は、海辺の1粒の砂のような存在でした。但し、この砂はとてもラッキーで、美しい貝殻であるRC、米山奨学会に出会えたわけです。そこで栄養をいただき、磨かれて洗練され、真珠まできれいに变身し、成長して行きます。

人間として成長しつづける舞台なのです。個人の努力で成長し、更に力を合わせて奉仕活動を通して他人の成長を支援する、博愛を広げる素晴らしい尊い組織です。これは、私が理解しているロータリーなのです。

いろいろ話をさせていただきましたが、一言でまとめれば、「報恩・奉仕・繁栄」ということです。恩を知り、常に感謝の気持ちを持って、人々のため、社会のために超我の奉仕を行い、社会の繁栄と世界の平和を目指し実現していく。皆さまとの出会いは、私の人生の宝です。于 咏でした。ご静聴、誠にありがとうございます。

第 1155 回例会 (10月27日) のご案内

職場例会 於：名古屋地方裁判所